

今後の理解醸成活動について

平成30年12月10日
環境省

1. これまでの取組

2. 今後の活動内容

委員の皆様よりいただいたご意見

◆ 理解醸成のあるべき姿

- リスクコミュニケーションは双方向性であるべきもの。CT自身もPDCAを繰り返しつつ、フィードバックを受けて変わっていく必要がある。
- 広報活動とリスクコミュニケーションは相関性はあるものの違う性質を含む。相互の活動を誤解しないように進めるべき。
- 信頼を醸成するには長い時間がかかる。そのことを理解したうえで、諦めずに継続していかなければならない。
- 情報は、誠実かつオープンに公開すべきである。一旦、誤解と不信感を持たれてしまうと、その後の説明において不信感の払しょくは難しい。
- 関係性の高い地元、自治体に正確な情報を、迅速に、正しく伝えることが重要である。

委員の皆様よりいただいたご意見と取組等との対応

委員の皆様よりいただいたご意見(※)	取組等
<ul style="list-style-type: none">・全国、関係性の深い地域、廃棄物が仮置場に多く存在する地域によって、理解醸成の進め方、在り方が違うことを理解して進めるべき。・信頼関係のある者からの説明と、見ず知らずの者からの説明では、説明を受ける者の理解は異なる。大規模説明会だけでなく小規模説明会の重要性を評価すべきである。	<ul style="list-style-type: none">○再生利用実証事業見学会にてアンケートを実施(資料2参照)○福島高校の国際高校生放射線防護ワークショップへの協力(資料2参照)○大学生向け学習プログラムの実施(資料2参照)○地元自治体の協力を得て、飯館村までい館におけるイベントにてパネルを展示(資料2参照)○JESCOによる平成30年度除去土壌等の減容等技術実証事業(中間貯蔵施設事業等に対する理解醸成)(資料3-1、3-2参照)
<ul style="list-style-type: none">・対象とするステークホルダーによって、提供すべき情報や伝達方法、理解醸成活動が異なり、併せて評価の考え方も異なることを踏まえ、ステークホルダー毎に整理する必要がある。	<ul style="list-style-type: none">○取組の対象者別の整理(本資料4ページ参照)
<ul style="list-style-type: none">・長期間が想定されるフォローアップ調査として、同じ方法で繰り返し調査することが重要である。	<ul style="list-style-type: none">○除去土壌の再生利用に関する全国向けWEBアンケートを実施(本資料6～9ページ、参考資料1参照)
<ul style="list-style-type: none">・質の良い(正確・過不足ない)一元的な情報整備が重要である。特に、「再生利用」が何なのかがわかりづらいため、そこも含めた一元的な資料を作成することが必要である。さらに、一元的な情報はHP等で誰でもアクセスできることも重要。・伝えるべき相手によって必要な情報の種類、適切な提供方法は変わる。伝えるべき相手に応じて、先に作成した一元的な情報から、提供の仕方を考えるのがよい。	<ul style="list-style-type: none">○コンテンツ(一元的な情報の整理)の作成(検討中)

除去土壌の再生利用に係るこれまでの取組(対象別整理)

これまでの取組を対象別に整理。

対象	これまでの具体的な取組(第1回CT以降の取り組みは下線)
全国民	<ul style="list-style-type: none">○環境省ホームページを通じた情報発信「県外最終処分に向けた取組」○「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会」の公開開催及び資料のホームページ掲載による技術情報の公開<u>○なすびのギモン「除去土壌の再生利用って何？」の作成、WEBを通じた配信</u><u>○除去土壌の再生利用に関する全国向けWEBアンケートを実施</u>
事業に係る地域の住民	<ul style="list-style-type: none">○地元自治体の協力を得て、実証試験場の近隣住民の方々、市民の方々を対象とする説明会・実証事業の見学会を開催○地元自治体と連携し、広報紙への事業概要の掲載○地元自治体の協力を得て、仮置場周辺の皆様(避難されている方を含む)に対する事業概要資料のお届け<u>○地元自治体の協力を得て、飯館村までい館におけるイベントにてパネルを展示</u>
教員、生徒・学生	<ul style="list-style-type: none">○福島高専による実証事業勉強会に協力<u>○再生利用実証事業見学会にてアンケートを実施(福島高専等)</u><u>○福島高校の国際高校生放射線防護ワークショップへの協力</u><u>○大学生向け学習プログラムの実施</u><u>○JESCOによる平成30年度除去土壌等の減容等技術実証事業(中間貯蔵施設事業等に対する理解醸成)</u>
自治体職員	<ul style="list-style-type: none">○地元自治体と連携し、南相馬市環境回復推進委員会を実証試験場内で開催
海外、専門家等	<ul style="list-style-type: none">○地元自治体と連携し、南相馬市環境回復推進委員会を実証試験場内で開催(再掲)○関係学会において、「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略の概要」を発表○再生利用実証事業場及び中間貯蔵施設受入・分別施設等に対する専門家等による視察会の開催○除去土壌の減容・再生利用に関するIAEA専門家との意見交換等を実施○二国間会議において、除去土壌の減容・再生利用に関する情報提供・意見交換を実施○検討会及びワーキンググループ等に対する専門家の参加○有識者ヒアリング等による情報収集<u>○再生利用実証事業見学会にてアンケートを実施(IAEA、ICRP)</u>

理解醸成活動の効果測定の方法

- 理解醸成の効果測定する方法として、一般的な社会調査の方法が考えられる。
- 次ページより、アンケート調査の結果を検討する。
なお、全国向けのアンケート調査と視察・見学会の参加者向けのアンケートでは、回答した方の属性等が異なるため単純な比較は難しいことに留意が必要。

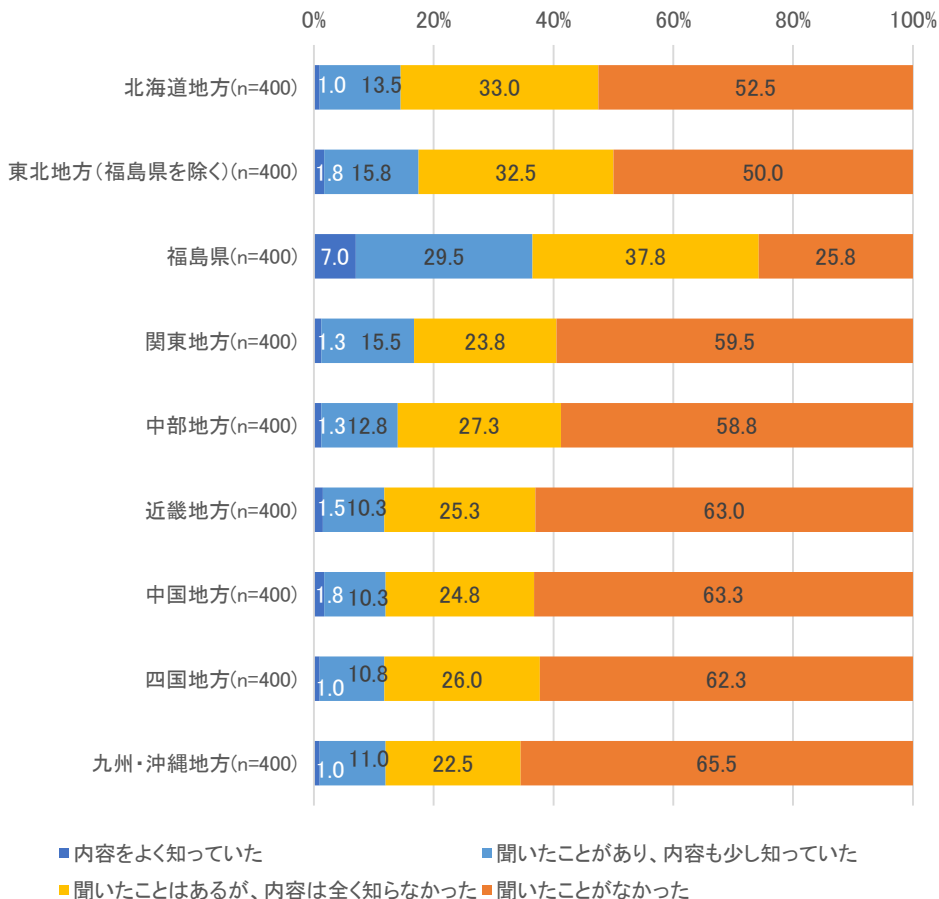
対象者	対象地域	効果の測定方法
国民	全国	世論調査
		アンケート調査
		インタビュー
		報道分析(テキストマイニング等)
		インターネット分析 (ホームページアクセス数等)
事業計画等の利害関係者 (住民、自治体、企業等)	事業計画等の 関係地域	アンケート調査
		インタビュー
視察・見学会の参加者	(限定なし)	参加者数
		アンケート調査

除去土壌の再生利用の理解醸成の現状①

再生利用の認知について

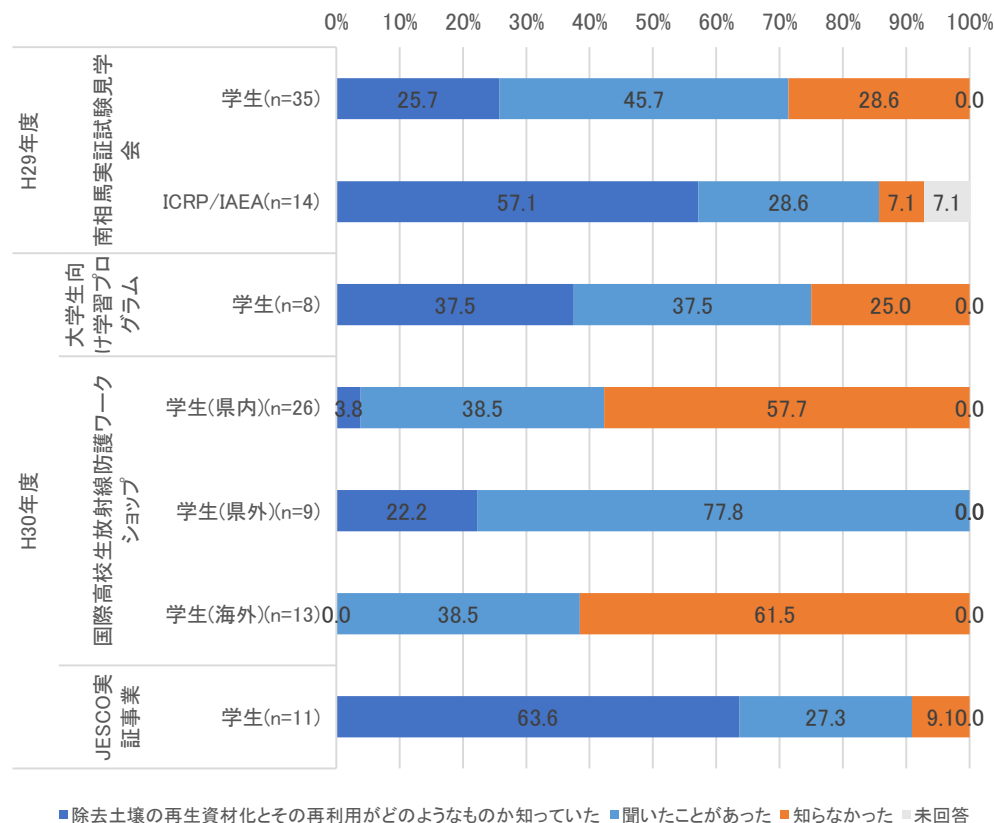
<WEBアンケート>

あなたは、除去土壌の再生利用について、その内容をどの程度ご存知でしたか。



<南相馬市再生利用実証事業現場見学会アンケート>

除去土壌の再生資材化とその再生利用について、どの程度ご存知でしたか。
(How much did you know about recycling and reuse of the contaminated soil before attending the demonstration tour?)



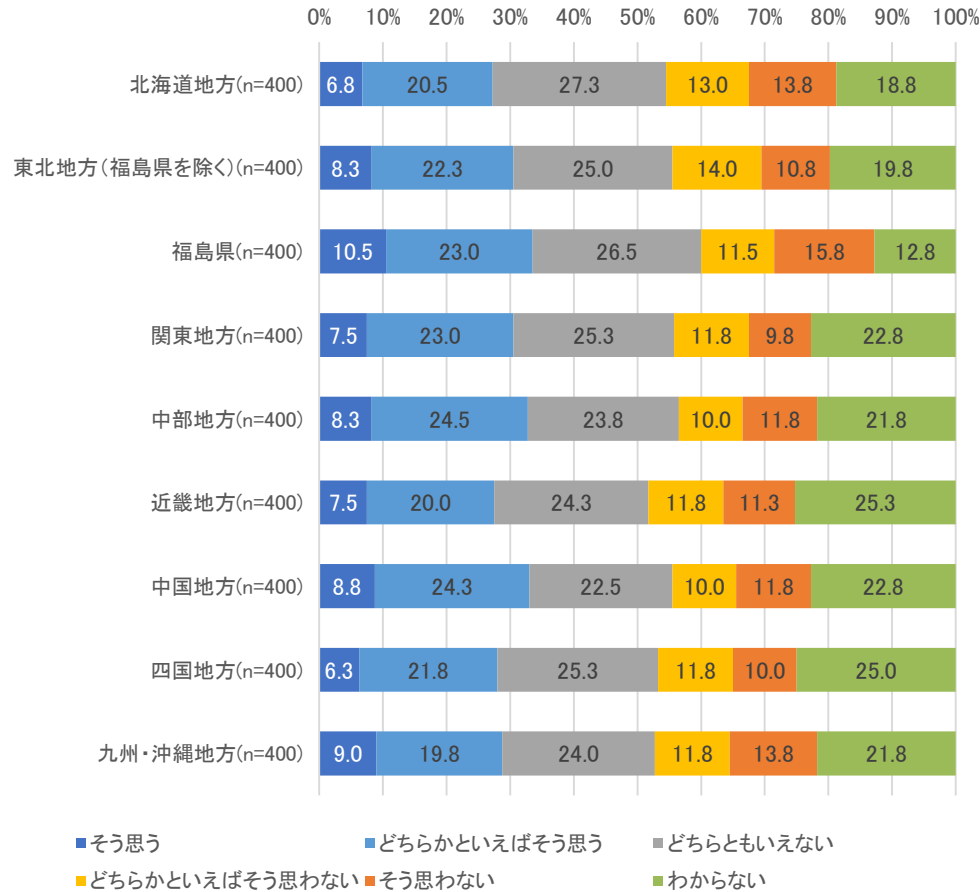
※WEBアンケートと実証事業現場見学会でのアンケートの文言等が異なることに留意。
※全国向けWEBアンケートの回答者と実証事業現場見学会参加者では、対象の属性が大きく異なることに留意。

除去土壌の再生利用の理解醸成の現状②

再生利用の必要性について

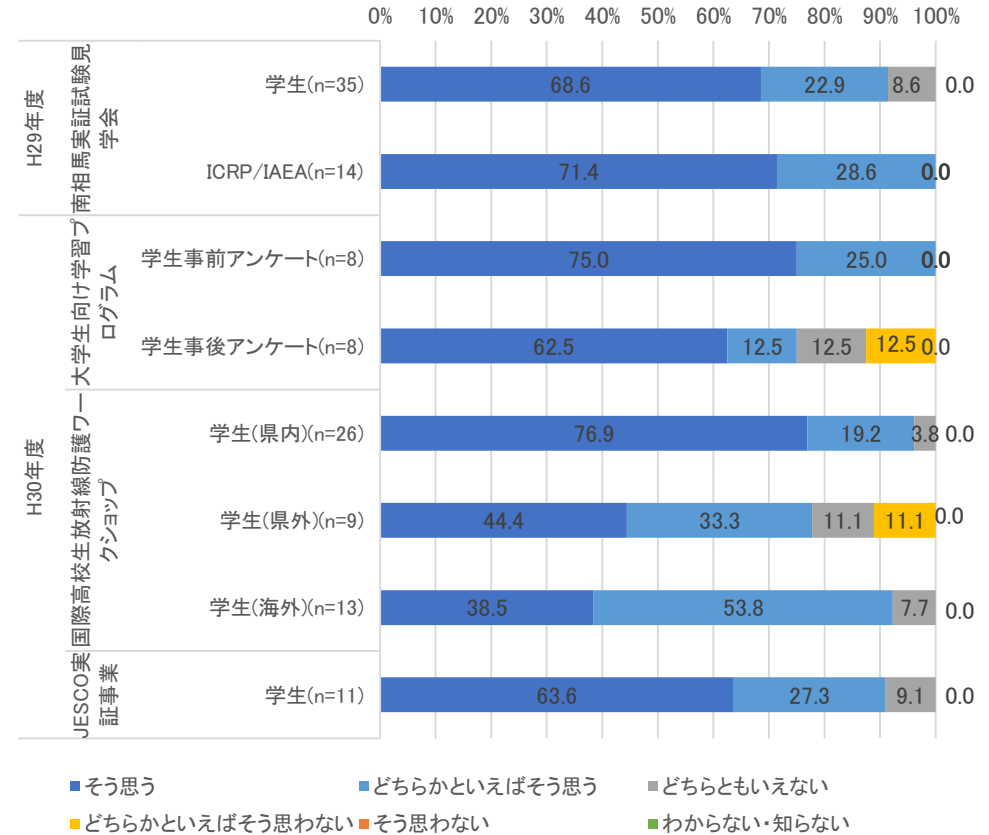
<WEBアンケート>

あなたは、除去土壌を再生利用する必要があると思いますか。



<南相馬市再生利用実証事業現場見学会アンケート>

除去土壌を可能な限り再生資材化して、公共工事等に再利用するべきと思う。
(Do you think that we should reuse the contaminated soil for public constructions after recycling as much as possible)



※WEBアンケートと実証事業現場見学会でのアンケートの文言等が異なることに留意。

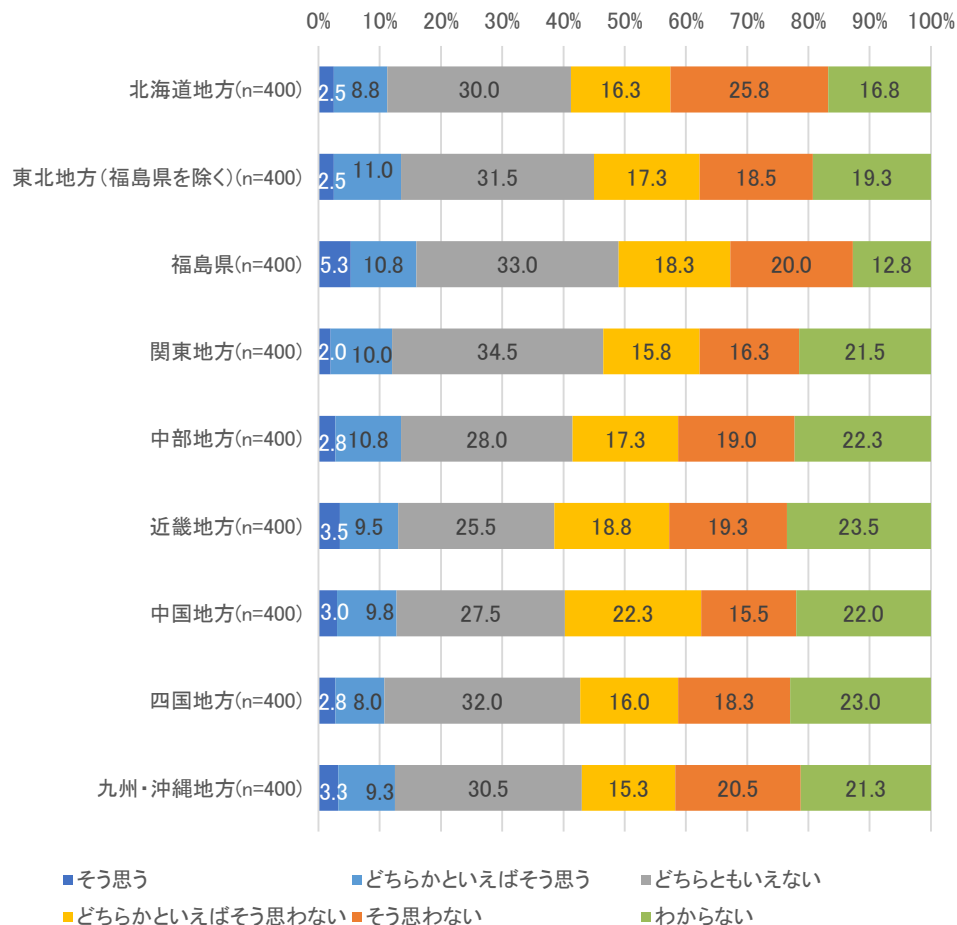
※全国向けWEBアンケートの回答者と実証事業現場見学会参加者では、対象の属性が大きく異なることに留意。

除去土壌の再生利用の理解醸成の現状③

再生利用の安全性について

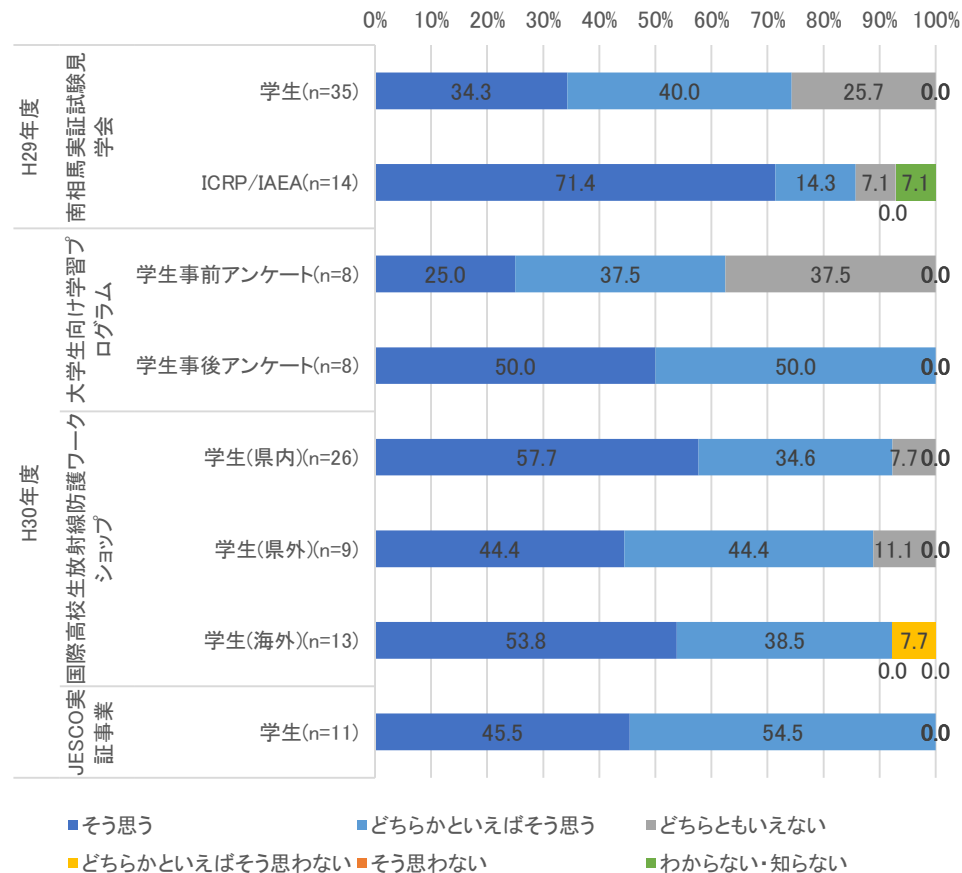
<WEBアンケート>

あなたは、除去土壌の再生利用は安全だと思いますか。



<南相馬市再生利用実証事業現場見学会アンケート>

再生資材の利用は安全だと思う。
(Do you think recycling of the contaminated soil is safe?)



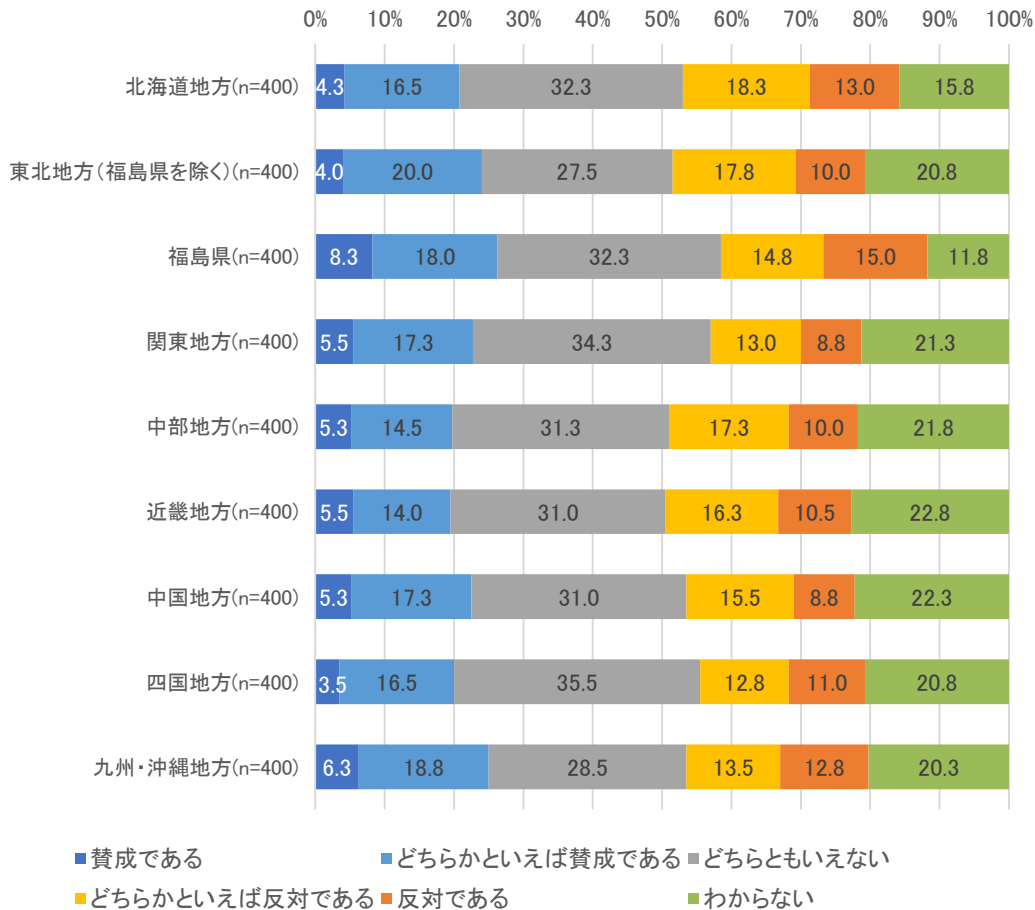
※WEBアンケートと実証事業現場見学会でのアンケートの文言等が異なることに留意。
※全国向けWEBアンケートの回答者と実証事業現場見学会参加者では、対象の属性が大きく異なることに留意。

除去土壌の再生利用の理解醸成の現状④

再生利用の賛否について

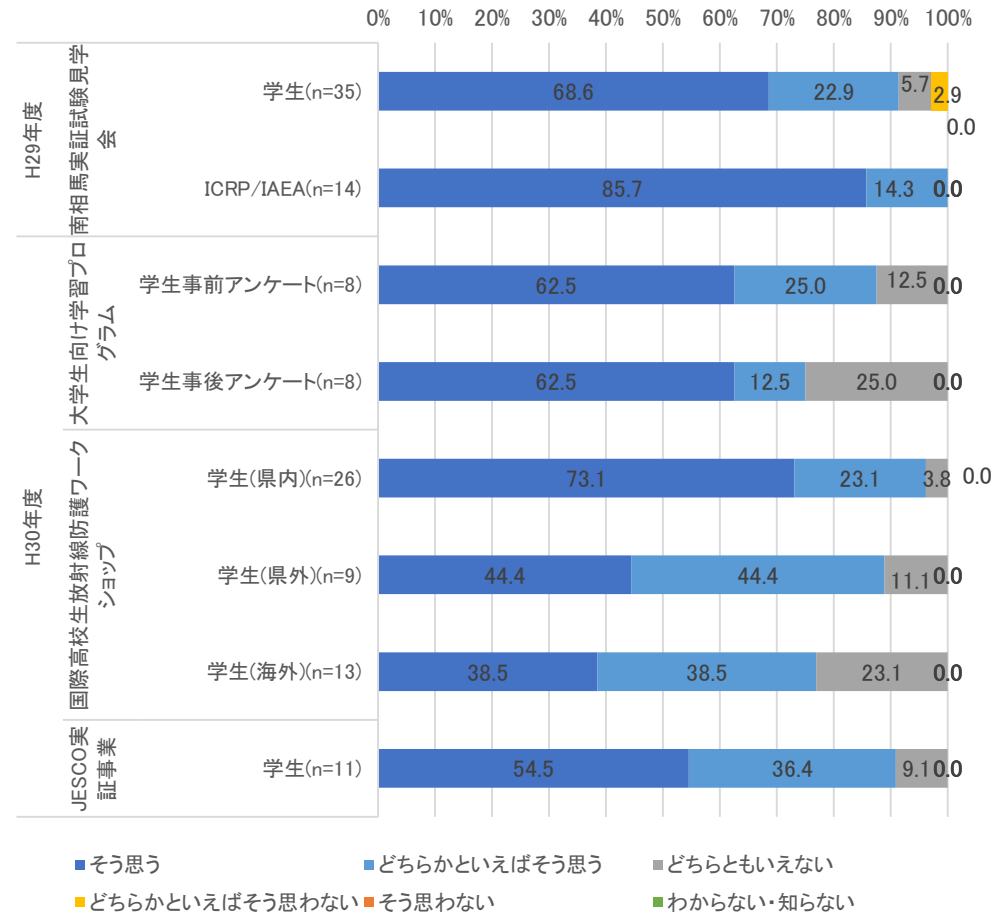
＜WEBアンケート＞

あなたは、除去土壌の再生利用を進めることに賛成ですか、それとも反対ですか。



＜南相馬市再生利用実証事業現場見学会アンケート＞

再生資材化とその再利用を進めることに賛成である。
(Are you for recycling and reuse of the contaminated soil?)



※WEBアンケートと実証事業現場見学会でのアンケートの文言等が異なることに留意。

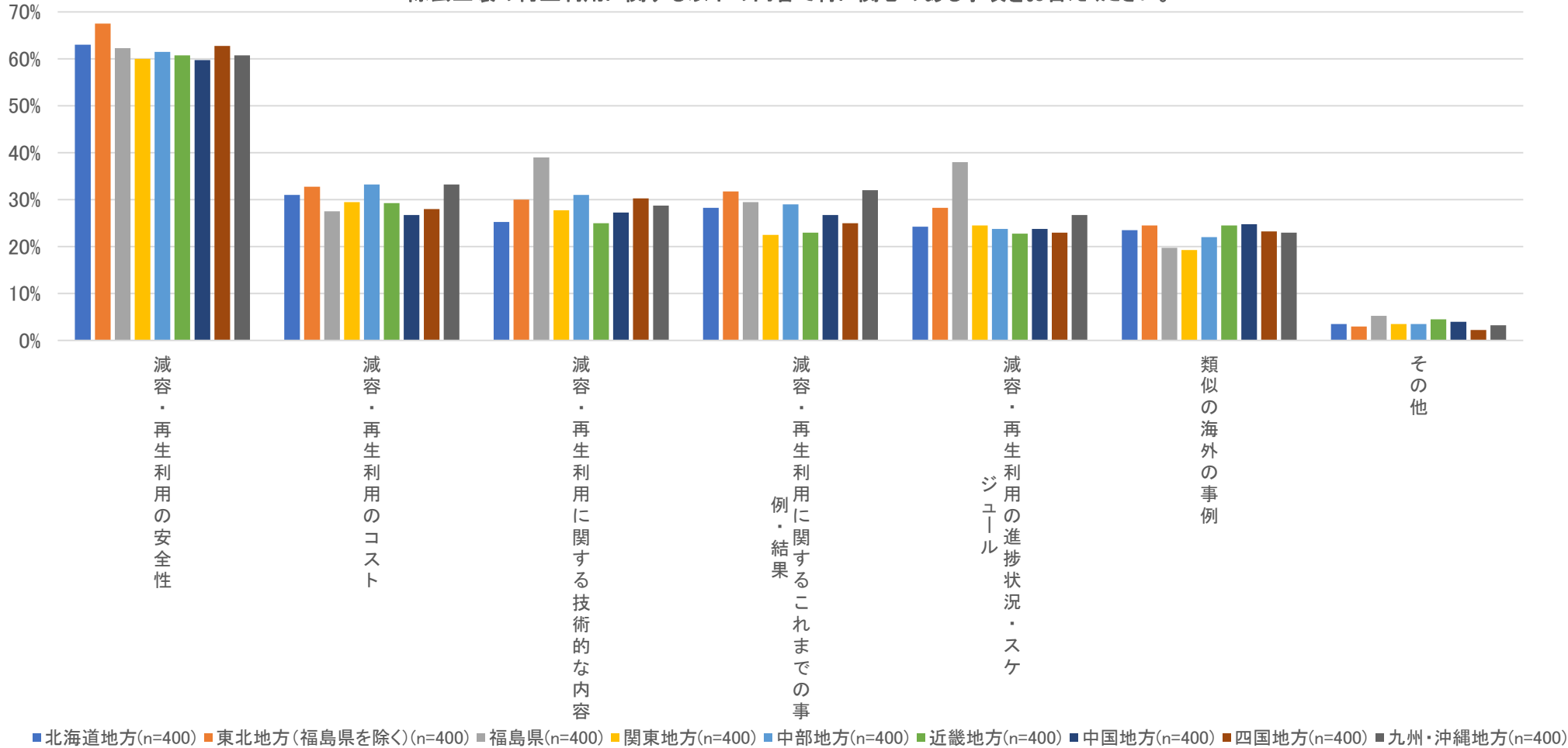
※全国向けWEBアンケートの回答者と実証事業現場見学会参加者では、対象の属性が大きく異なることに留意。

除去土壌の再生利用の理解醸成の現状⑤

再生利用に関する関心事項について

＜WEBアンケート＞

除去土壌の再生利用に関する以下の内容で特に関心のある事項をお答えください。



1. これまでの取組

2. 今後の活動内容

これまでの取組の振り返り

【理解醸成の現状について】

- 実証事業現場見学会におけるアンケート調査の結果から、現場へ足を運んだ方は再生利用に関する認知度も高く、必要性、安全性等について比較的理解をいただけている。ただし、現場の見学に来られる方には一定の関心があると思われることに留意。
- 一方で、WEBアンケート調査の結果では、福島県の方の再生利用の認知は“聞いたことがある”との回答が半数以上存在しているものの、全国の方々にとっては必ずしも再生利用の認知度は高いとはいえない。
- また、再生利用の必要性、安全性および再生利用の実施に対する賛否について、“どちらともいえない”との回答が3割前後と最も多くなっており、それらの判断のための情報が不足している状態である可能性がある。
- 関心のある事項としては、“減容・再生利用の安全性”に対する回答が最も高かった。

具体の今後の方針(案)及び活動内容(案)①

- コミュニケーション推進チームより、今後の方針、活動内容やそれらの進め方について、ご意見、アドバイス等をいただきたい。

【今後の方針(案)】

- 一般の方々からの再生利用に関する認知度や必要性、安全性の説明は十分であるとはいえない。中間貯蔵開始後30年以内の最終処分に向けて重要な取り組みであることを踏まえ、今後も必要な情報公開に努め、時間をかけて信頼を醸成していくため、理解醸成活動を続けていく。

【具体の活動内容(案)】

○WEBページの改定・充実

- WEBアンケートの結果を参考に、「減容・再生利用の安全性」をしっかりと確認できる内容とする。
- 福島県内では、「技術的な内容」や「進捗状況・スケジュール」に関する内容も関心が高いため、対象者別のページを作成することも一案。
- 一方で、現場見学は対応範囲が限られているため、実証試験の状況と結果についてわかりやすくホームページ上に掲載。

○WEBアンケートの継続的な実施

- 来年度以降も継続的に実施し、経時的な今後の理解醸成活動の効果測定を行う。調査項目、調査対象は事業の進捗に従って、適宜修正を加えていく。

具体の今後の活動内容(案)②

【具体の活動内容(案)】

全に事業に係る地域の方々の活動

○事業に係る説明会や広報を継続的に実施

- 地元の方々への安心、信頼につながるよう実証事業等の進捗状況に合わせ、適宜説明会や広報を実施。

○コンテンツ(一元的な情報の整理)の作成

- 「再生利用」とは何か、という基礎的な内容から再生利用の技術的側面まで広範な情報が含まれた再生利用に関する一元的な資料を作成する。HP等に公開し、誰でもアクセスできるような状態とすることを想定。全ての資料を一括で整理しておき、コミュニケーションのタイミング、相手に合わせて適宜組み替えて資料が作成できるようにする。
- 資料の組み替えにあたっては、アンケートにおいて尋ねた再生利用に対して関心のある事項の回答を参考とする。

その他、適宜対象に合わせて行う活動

○実証事業現場見学会の拡大

- アンケートの結果から、実証事業現場の見学により、再生利用に関する理解の促進が示唆された。それを受け、地元だけでなく、対象の範囲を広げて実施することで理解の醸成を図る。

○学習プログラムの実施

- 今回は、福島県外の大学生を対象に実施。
- 今後は、自治体職員向け、理系技術者向けといったように対象を変えながら継続的に実施していく。